



所 郡 民 人 館
行 原 集 司
西 町 公 郡 所
卷 北 川 郡 刷 株 式 会 社
北 洋 印 刷 株 式 会 社
(西蒲、巻町、電話204番)

就任の御挨拶

巻町長 山添 清一郎

この度、町民の皆様
の御推挙により私が町
長の重責を担うことと
成りました。つきこと
に公民館報を通じて、一
言御挨拶を申述べさせ
ていただきます。

おるのでありまして、
特に町民の福利増進に
直接関連性のある事業
につきましては議会に
諮り、早急に実現した
いと考えております。
鯉濁の干拓に伴うこ
れが開発については町
民の皆様から格別の御
関心と御協力をいただ
きたいと思っております。

りますのでこの点特に
皆様の御協力をいただ
かねばならぬものと存
じます。
激動する生々しいこ
の実社会の一年は昔日

創立八十周年に寄せて

学校長 笠原 俊 弑

かかると、不肖乏し
きを以て前任者の後を
受継いだものでありま
すが前任者の残された
輝ける業績を活かし、
これを実現するとともに
今後の問題を着実に
実行致してゆく覚悟で
ありますので皆様の絶
大な御協力と御支援
の程を切に懇願する次
第であります。

次に文教問題であり
ますが、小学校児童の
増加に伴い、これが改
増築を大きく取り上げ
ねばならぬかと思われ
ます。日本再建の根底
をなす学校教育の問題
は小我を捨てて考えね
ばならぬ事と思われま
す。何事を致しますに
も先立つものは金であ
る。

巻小学校は明治六年
一月十五日創立致しま
したので今年で丁度満
八十年の誕生を迎えた
わけです。
去る三日、菊花蕪る
文化の日をトして記念
式を挙行し併せて祝賀
の旗行列を全校で行い
ました。

おもうに我が巻町に
とりましては、尙残さ
れた問題が山積致して

倍て十年をいくぎり
として記念の式や行事
等をやるとは過去を
反省し現在に到つたこ
とを寿ぎ、而して将来

への発展拡充を画する
ところにと重大な意義が
あることと思ひます。
この意味から当校は
記念すべき年を契機と
して学校図書館の建設
を計画し既にPTA及
び後援会で請願書を教
育委員会や町当局へ提
出して其の実現を熱望
しているわけでありま
す。

勿論学校図書は決し
て贅沢なものでなく、
児童の学習効果をあげ

るために是非とも必要
な施設であることは前
にも本紙を通じて述べ
たことは御記憶のこと
と存じます。

な先国会で法律を
以て「学校図書館法」
が成立され、二十九年
度は最少限度四億余万
円を予算化することに
目下文部省は懸命に努
力中でありませう。これ
を見てもその重要性和
必要性は明らかと存じ
ます。



投票者数 六、二四五
無効投票数 四、九七三
投票率 二一一
七九、六三%

選挙 巻町長選挙 開票結果

(昭和廿八年十月三十一日)

| | | |
|----|--------|-------|
| 当選 | 二、五一一票 | 山添清一郎 |
| 次点 | 二、三〇二票 | 白崎 一二 |

有権者数 六、二四五
投票者数 四、九七三
無効投票数 四、八二三
投票率 一六五
七九、六三%

◆巻町議会 議員 補欠選挙開票結果

当選 二、四五二票
筒井 津一
一、二九九票
笹木甚一郎

次点 一、〇一一票
大越 一二

有権者数 六、二四五
投票者数 四、九七三
無効投票数 四、七六二
投票率 二一一
七九、六三%

伸長、基礎的学力の拡
充、豊かな情操の涵養
自主的学習の態度の養
成等々の新教育のねら
いを果し、かねて当校
の校舎の狭隘をカバー
して行きたいのであり
ます。町民各位はじめ
町当局の一段の御理解
と御声援を念願してや
みません。愛しき児童
のために、郡都巻町の
将来発展のために。

実 火

町民を驚
かせた停
車場通り
の火事は
近來にな
く町の話
題となつ
た。

はがき回答

私の望み

新しい町長に

一、要望事項一つ
二、感想
松村孝操 十三区
他町長に比して非常
に消極的であると思
われるので、つと積
極的施策をとり入れ
郡都としての面目を
発揮してほしい。

らわれず、町長の補
佐役たる助役、収入
役の人選に重点を置
き、手腕力量あり且
つ人格高潔なる人物
を選任し、乱れたる
町政が明朗化する様
切望する。

りしに基因する爲と
思う。この乱脈たる
町政を刷新する決意
をもつて就任された
新町長の勇氣には敬
意を表するものである
故に新町長は一党一
派に偏せず、公正公
平自己の所信を断行
し、万一その信を断行
しに依る所信断行不
可能な場合は断行す
る御決意があること
を信する。尙今
回の不祥事は金銭上
に端を発したもので
あるが、果して然ら
ば、監査委員が其の
職務を完全に遂行せ
ざれたらしや、否監
査委員並びに町議各
位の猛省を希む。

一、要望
「私費支出に依る町
政廃止」
従来とく町長にな
ると財産がなくなる
とか、金がなくなる
とか、事を耳にすると
云う事であるが、今
然し私共一般町民に
は、とても理解に苦
しむ話である。私費
の支出に伴う不純な
政治から、親分子分
のボス政治が生まれ

ることを私共は充分
注意しなければなら
ない。以上の事に意
を払い、明かるとい
う政治をお願いしたい。

一、要望
都市計画の早急施行
二、感想
交通、衛生及防火上
に且又住宅難の今日
住宅地の実現、商店
街の建設促進等々に
も早急施行を要望す
る。

先人の生活文化を求めて

文化遺産展



公民館、妙光寺を会
場に第三回新潟県文化
遺産展が去る十四日よ
り三日間、郡内に於け
る重要美術品を始め、
私達に関係深い古文書
記録など二百余点を集
めて開催された。
第一会場の公民館に
は郡内古城址鳥瞰図を
始め重要美術、天然記
念物に指定された、杉
の杉、月島の梨等々の写
真の外、峰岡の銀明竹
は美術品を展示した。出

美術品として既に世に
知られているがはじめ
て御覧になられた方々
も多いと思えます。
第一会場で特に注意
を引いたものに月島の
越後獅子の遺品でこれ
は県の斯道研究家が県
民俗史に新しい一頁を
加える貴重なものと、
大観判をおして帰られ
た。其の他民俗資料、
茶の釜、香炉、水注等

が処せまじとばかり陳
列された。
第二会場の妙光寺で
は弥彦神社社宝の青磁
袴腰大香炉、九曜巴文
双鶴鏡、上杉公の折願
文、万葉上人の野路の
杖、國上寺寺宝の面、
鐙口、古文書、種月寺
宝の謙宗禪師「鼓丘軒
記」袈裟、角田種月寺
の日寿上人双幅を中心
に良寛の遺墨、謙信公

関保文書の外、書では
栗生津の鈴木文台先生
一家のものを始め、巻
の館御湯先生、菱湖の
ものも見えた。
画では富取芳翁、芳
谷、清旭をはじめ館蔵
筋等十数点で埋めつく
した。第二会場のそれ
は最近にない斯道展覧
の庄巻とも云えよ
う。

先生のお嬢さんたちの
御協力により茶席が設
けられ又一日八十人か
ら百人といった盛況
で、茶席を初めて味つ
た方々もずいぶん多い
うであった。
これが開催に当りお
寄せいただいた御厚意
に対し衷心より敬意を
表します。(司)

茶の会の石川、本間

団体からの

おたより

公民館

去る十月開講した巻
町青年学級もお陰様で
予定通り受講生の学び
とらぬかなの意気によ
りこの寒さにもめげず
毎週続けられています
毎週火曜日に行う定
期講座のいけ花はいつ
も三十名以上の御集り
をいただいているので
続けていますが、書道
の方は最近あまり集る
方が少いので休講しま
した。又第二第四曜
日の国語講座は当分続
けたいと存じます。其
の他婦人講座は適宜に
開き其の都度御案内
いたします。

婦人会だより

十一月九日文化祭の
行事に順と踊の夕を催
す。素人演芸会ながら
慰安をかねた一夜は盛
会だった。廿一日PT
Aと共催の教養講座は
先月に続いて新大の斎
藤和代先生から児童心
理を聞く、回を重ねる
毎に益々有意義に深い
感銘を残している。

スポーツ

文化祭に織り込まれ
たスポーツは三日の野
球大会を皮切りに二十
三日の排球選手権大会
をもつて終った。ほ
んど毎日曜日、中学
校、農学校を会場にそ
れぞれ郡内の雄を集め
て手に汗握る熱戦を展
開、特に最後に行なわ
れた西浦排球選手権大
会、三島、西浦少女排
球大会は巻町文化祭の
最終行事としてふさわ
しいものがあり、これ
が最後の花を添えてく
れた。

川釣大会
公民館及善釣友会主
催の優勝旗争奪秋季川
釣大会は十一月三日松
野尾村上堰渡で行われ
た。当日は快晴にめぐ
まれ八十余名の参加者
を得て、まれにみる盛
会裡に終了した。主な
入賞者次の通り。

御挨拶
謹んで町民の皆様
に一言申述べます。
去る二日早晩巻町通
りの失火に際しまして
は、火点近くにあり
る水路の水不十分か
ら初期消火活動が思
うようにならなかつ
た爲不幸にも全半焼
六戸を出ました。結
果となりましては私達
消防人と致しまして
甚だ残念且つ恐

縮に存じますと共に
罹災なされた方々に
対し衷心より深く御
同情申し上げます。又
町民の皆様に対しま
してもこの点消に遺
憾に存じている次第
で御座ります。
今後はこの防火用
水利の面について充
分留意の上町当局
に御願ひ致し、重点
的に而も早急善処し
ていただく一方、消
防技術の錬磨に専念
いたし再び斯かる事

十二月は新大村先
生の「江戸時代の庶民
生活」について開いた
史学会も毎月の第一土
曜日(夜)をそれぞれの内
容を持って続けていま
す。最後に十二月の第
一、二、三日曜日の午
後からの手芸講座(人
形の作り方)は丸善の
西郡さんを囲んで始め
ました。お互、忙しい
中に見出す貴重な時
間に学ぶことこそ本
当に自分のものになる
ようです。

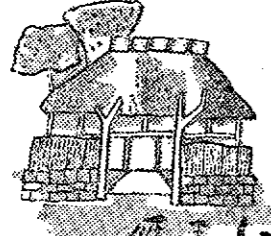
公民館で行う事業は
すべて皆様のものでは
りまして皆様が自由に
出入し皆様の希望、意
見を充分に聞き、計画
致したいと考えており
ますのでわが家のよう
に気易くお出いただき
そしてわが事のように
いろいろ考え指導して
頂きたいものと考えて
おります。

公民館で行う事業は
すべて皆様のものでは
りまして皆様が自由に
出入し皆様の希望、意
見を充分に聞き、計画
致したいと考えており
ますのでわが家のよう
に気易くお出いただき
そしてわが事のように
いろいろ考え指導して
頂きたいものと考えて
おります。

公民館で行う事業は
すべて皆様のものでは
りまして皆様が自由に
出入し皆様の希望、意
見を充分に聞き、計画
致したいと考えており
ますのでわが家のよう
に気易くお出いただき
そしてわが事のように
いろいろ考え指導して
頂きたいものと考えて
おります。

公民館で行う事業は
すべて皆様のものでは
りまして皆様が自由に
出入し皆様の希望、意
見を充分に聞き、計画
致したいと考えており
ますのでわが家のよう
に気易くお出いただき
そしてわが事のように
いろいろ考え指導して
頂きたいものと考えて
おります。

公民館で行う事業は
すべて皆様のものでは
りまして皆様が自由に
出入し皆様の希望、意
見を充分に聞き、計画
致したいと考えており
ますのでわが家のよう
に気易くお出いただき
そしてわが事のように
いろいろ考え指導して
頂きたいものと考えて
おります。



感じたまま

西浦穀倉地帯の中心
地、巻町へ居を移して
半歳余。前任地の宮内
町と比較して余りにも
穏やかな町の雰囲気
始めは戸まどいした気
持がなりました。町

けちんぼと儉約と

巻小学校
南 雲 純 雄

よく云われていることですが、けちんぼは、けちんぼだんないけちんぼだんな……。

こんなことを考えてみられたことがあり、けちんぼは、けちんぼといふことと同じです。しみつたれといふことと同じです。は悪い意味でモノオシミは一人よがりです。自分だけが、とそういう考えです。

それがけちんぼといふものです。はつきり悪くいいますと、近頃の日本は少し、ダランなさすぎはしないでしょうか、原子爆弾で戦争は終りをつげ、あれからも、八年目です。その間にたしかに日本はめざましい進み方をしました。しかしそれは、ただうわつらだけのものなのです。

戦争に敗けた日本にパチンコがはやり、キヤバレーが榮え、勝つたはずのイギリスは、つい最近になって、パンが白くなつて来たという事です。女王のタイカン式というはな

やかな行事をやるはんめんイギリスの人たちは、できるだけのタイボウ生活をしているとのことです。今でもつて、百年前の、日本というなら一銭銅貨がつかわれていたといふからおどろくべきもので

けちんぼとよく間違えられるものに、儉約

まだ桜児期にある私の読後の感想など明示する事は困難であるが、かつて数ヶ月の闘病生活に多大な慰撫と力とを与えてくれた事だろう。

昔から儉約に一生懸命で自ら、それにとめた人は多くおられますが「徒然草」に見えておる、松下禪尼のきりばりなどはよくござんじのことと思ひます。將軍の身である吉宗

か、リンカーンの不屈の精神や幾分宗教的な親鸞、トルストイ作ものなど今尙感銘深いものがある。あの頃の心境は読書する為にも長く生

雑多な家事とまだ保健上、時間に限度のある為夜遅くまで読書する程無理のきかぬ私ばかりで、借本期間が延びあつて最後まで読まず返本する事もしばしばある

念にかられたが、折角遅ればせながら芽ばえた読書に依る幸福感を、いたいけな幼な児のよち／＼歩きを、得々としたあの心境で拙い筆を置く。(一主婦)



命を保持したいと願つた程で、私の今あるも、一つは書物によつて快癒したと云つても過言でないと思ふ、其の点公民館の図書部には何時も感謝している。

これからも、とかく人の噂に空費する時間を読書に宛て、生涯私の伴侶にした

書評又は感想文を毎月この紙上読書室に掲載致して参りましたが、これからの冬の夜長に生業の余暇を読書に向け、楽しみながら教養を高めよう。

読後の貴方の書評感想をいただければ幸いです。そしてこの欄を長く育てて行きたいと存じます。

とも日本の歴史に残つております。この紙一枚、これつぼちのつぎつぎ、こんなガラスくず、こんなもの、こんなものといふのは、さげまじやう。

こんなものがつもりつもつて、大へんなものになるのです。チリもつればヤマとなる

くずはくずでも使ひみちがあります。こんなものと思ふ、そのモノの生命には天

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

大河津分水

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

安永寛政の兩度年に天保四巳年願人これあり、当国三島郡町野井村と大河津村の間より同郡寺泊町下夕字須走浜まで新川掘り立て。川口は洗堰を構え、信濃川分水仕り候えは、新濁湊までの間、洪水の節、水腐村々水書を遁れ、御領私領、莫大の御益筋と相成り候趣目論見の由、承るに及び、その節々故障歎願仕り候に付、御沙汰止みに相成り、安堵羅り在り候ところ、猶今般右村目論見の義に成らせられ、去月廿六日御檢使候御下向、驚き入り心痛至極に存じ奉り候

これは松屋に残つてた西川一件箇中にある、天保十三年九月の分水反対の歎願書の前文である。反対の理由は、信濃川の水が大部分分水の方へ流れるだろうから従つて西川も干揚り、そこから用水をひいて

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。

干揚り、また御年貢米などの運送を家業にしている者どもも、その家業を失わざるを得なくなる。といふのである。



町民の声
隨筆・小品文
短歌・俳句
詩・その他
いづれも原稿用紙使用のこと
宛先 公民館弘報部
(選択については公民館弘報部にお委せ下さい)

原稿募集

弔

- 吉崎正和氏(二五)
- 九区 十月十七日
- 山崎忠次氏(五三)
- 十三区 十月二十日
- 大岩洋子氏(〇〇)
- 一区 十月廿一日
- 今井ムツ氏(五四)
- 七区 十月廿五日
- 湧井綱衛氏(七三)
- 五区 十月廿六日
- 筒木市太郎氏(七一)
- 十三区 十月廿八日
- 内藤甚松氏(七一)
- 九区 十月廿八日
- 小林太六氏(八〇)
- 十二区 十月廿九日



外 號

昭和二十八年十月三十一日

巻町選舉管理委員會

巻町公民館

巻町長選舉開票結果

當選 山添清一郎 二、五一一票

次点 白崎 一二、三〇二票

| | |
|------|--------|
| 有權者數 | 六、二四五 |
| 投票者數 | 四、九七三 |
| 有効投票 | 四、八一三 |
| 無効投票 | 一六五 |
| 投票率 | 七九、六三% |

順序は立候補届出順による

巻町議會議員補欠選舉開票結果

當選 笛木甚一郎 一、二九九票

當選 筒井津一 二、四五二票

次点 大越 一一、〇一一票

| | |
|------|--------|
| 有權者數 | 六、二四五 |
| 投票者數 | 四、九七三 |
| 有効投票 | 四、七六二 |
| 無効投票 | 二一一 |
| 投票率 | 七九、六三% |

順序は立候補届出順による